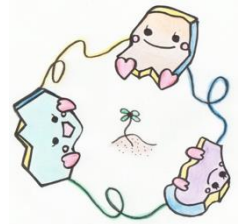


# 東北復興 PSW にゆうす



「復興支縁ツアー in いわて」が2015年4月25～26日に開催されました。今回もツアーの様子を中心にお届けします。



### 「復興支縁ツアーinいわて」を開催して 品川清美（ひめかみ病院：岩手県支部長）

2015年4月25日(土)26日(日)の両日は、春を飛び超え初夏を思わせるほどの好天でした。参加者は岩手県から南は沖縄県までの総勢24名でした。

初日は一ノ関駅で参加者の皆様方と合流しバスに同乗。お楽しみ袋を載せて資料等を眺めながら春満開の道中を経て、復興再建されたばかりの大船渡魚市場に到着しました。岩手県精神保健福祉士会研修会とタイアップした開催で、シンポジウムでは「おあしす・ばでい、児童家庭支援センター大洋、地域活動支援センター星雲」の被災された各氏から、実践活動報告を拝聴させて頂きました。グループワークでは、震災時の在り方について改めて皆さんで討議しました。大船渡プラザホテルでは大変美味しい御馳走と地元の余興も体験し、2次会3次会にも沢山の方々にご参加いただきました。

2日目は、大船渡駅からBRTバス（鉄道の代わりにバス運行）に乗り出発、震災当時の傷跡が未だに残っていました、陸前高田市一本松駅で下車。バスに乗り換え約1時間程度、被災地ガイドさんから陸前高田の過去から現在までの様子等を拝聴、慰霊塔で献花し全員で哀悼の意を表しました。バスを降り、自由時間では多くの方は高田松原の一本松の根元まで見学に行かれました。昼食は広田半島の中腹にある左官伝承館内の伊達藩時代の家屋で昼食。ロケーションは大変素晴らしかったのですが、移動途中の海岸線は未だに復興の途上にある現実がありました。バスで一ノ関駅に着き散会となりました。

復興もまだまだ時間がかかります。今後とも継続支援下さいますようお願いいたします。

### 「復興支縁ツアーinいわて」に参加して 東日本大震災復興支援委員会（神奈川県支部）三瓶英美

復興支縁ツアーinいわてに参加をしました。昨年ツアーを延期してから半年、準備にご尽力いただいた岩手県士会の皆様のご協力のもと、ツアーに関わって下さった皆様のあたたかなおもてなしにあふれ、参加された方々の様々な想いにふれた旅でした。

ツアーでは、BRTバスに乗って大船渡から陸前高田へ移動をする道すがらや、ツアーガイドさんの身に迫るお話、盛り土された風景、仮に設けられた運動場で活動する学生たちの姿、水耕栽培のドーム、プレハブの屋台村で過ごした夜など、今の現地の日常を肌身で感じ、「あの時」何があったのか、そして「これまで」どんな時間を経過したのか、そして大船渡や陸前高田の「これから」がまだまだ道半ばであり様々な課題に取り組まれているご様子を知りました。岩手の皆様とグループワークをし、語り、僅かながら現地の現状に向き合い、考える大変貴重な機会を頂きました。

岩手のさわやかな春風、桜、チューリップなどの花々、そして岩手の皆様の笑顔に見送られ、この旅で出会い得られたかけがえのないご縁を大切に、「これから」の岩手をより身近に感じ、そして何度も訪れようと思える機会となりました。ツアーにご協力いただいた皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

### \*\*\*ツアー参加者の感想\*\*\*

お聞きしたことを伝えていきたいと思いました。

現地のPSWの歓迎に感激しました。感謝です。場所（魚市場）も良かったです。

被災された人々の気持ちが前を向けるようになるには、どれほど時間がかかるかと、しみじみ感じました。メディア等で復興という言葉が安易に使われることに疑問を感じましたし、前向きになりたくてもなれない辛さがプレッシャーになると感じました。こんな実情を一人でも多くの身近な人々に伝え、写真を見せ、改めて録画してあったテレビ番組を見て記憶に留めました。

陸前高田の  
奇跡の一本松



2日間お世話になりありがとうございました。参加して本当に良かったです。今から出来ることからやって行きます。ありがとうございました。

岩手の皆さんのがんばりがヒシヒシ伝わって来て、今後も応援していきたいと強く思いました。ありがとうございました。

- ・災害は忘れた頃にやってくる、記憶は風化するが、心の傷跡は風化しないという事を改めて感じました。
- ・再建という意味では、精神障害者の生活再建と同じと実感しました。PSWを目指す学生に伝えます。
- ・実際の業務に即、そのままのものというよりも考え方、価値感、などが意義であったと思います。

### 被災地における障害福祉事業所の販路拡大支援について

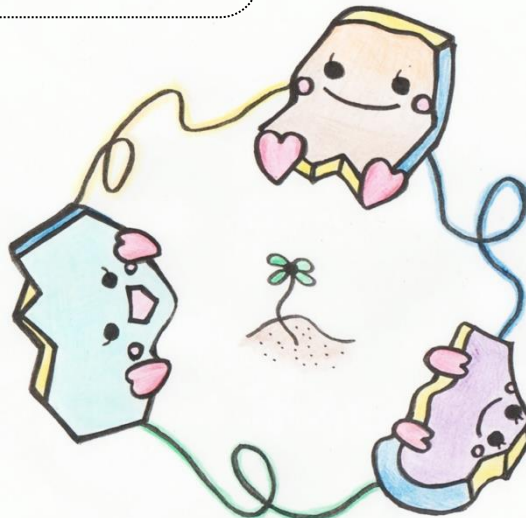
東日本大震災より4年が経過しました。東北地方を中心として、復興状況はまだ道半ばな状況と言えます。物販をしている障害福祉サービス事業所の販路拡大も、この状況に比例して困難な課題となっているところもあるかと思えます。つきましては、本協会WEBサイトにおいて、障害福祉サービス事業所の活用をPRするとともに、希望する事業所のWEBサイトのリンクを貼る販路拡大支援のご提案をさせていただきます。本協会の活動を通じて、皆さまの事業所のさらなる復興へ寄与できれば幸いです。詳しくは日本精神保健福祉士協会ホームページ（下記URL）をご覧ください。

**☆皆さんからのメッセージを募集します☆** 本紙では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しております。全国どなたからのメッセージでも構いません。それぞれのお立場からの声をお聞かせください。本紙へのご意見・ご感想も大歓迎です。本紙面や協会ホームページにてご紹介させていただきます（原則として投稿者氏名以外の個人情報掲載いたしません）。お届け先は東日本大震災復興支援委員会へFAXもしくはE-mailにてお願いいたします。  
E-mail: office@japsw.or.jp \* 題名に「PSWにゆうすについて」とご記入をお願いします。

陸前高田のガイドさんのお話。胸を突かれるような思いでしたが、実際に体験した多くの方々、亡くなられた方々の事を考えると、忘れてはならない事だと思いました。

現場の方の話を聞ける時間はとても貴重なので、もしまた参加する機会があればぜひ設けていただきたいです。もっともっと宣伝してください。

「支援をする」ということ、「支援を受ける」ということについて考えました。「支援を受ける」という状況＝困っている状況に加え、「支援を受ける」という立場としての弱さが生まれる時、「支援する」者たちはそのことを心に留めておかなければならないと思いました。



これまでの支援に感謝！  
これからもよろしくお願いします。



語り部ガイドの話に真剣に耳を傾ける参加者

### ☆福島大会速報☆

全国から1,000名を超える方々に参加頂き有難うございました！委員会物販も福島物販同様に2日間開催され大盛況でした！福島大会の詳細は次号をお楽しみに！

第17号 2015年7月15日発行

発行：公益社団法人 日本精神保健福祉士協会 東日本大震災復興支援委員会

〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル7F TEL.03-5366-3152 FAX.03-5366-2993

URL: <http://www.japsw.or.jp/>